

介護過程

問題 61 介護過程の目的に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 利用者の健康状態の改善
- 2 介護福祉職の介護観の変容
- 3 他職種との役割の分化
- 4 家族の介護負担の軽減
- 5 利用者の生活の質の向上

問題 62 介護福祉職の情報収集に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 五感を活用した観察を通して情報を集める。
- 2 一つの場面に限定して得られる情報を集める。
- 3 初対面のときから踏み込んで情報を集める。
- 4 興味のある個人情報を集める。
- 5 実践したい支援に沿った情報を集める。

問題 63 次の記述のうち、介護過程の展開におけるアセスメント(assessment)の説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 支援内容を説明して同意を得ること。
- 2 具体的な支援計画を検討すること。
- 3 達成できる目標を設定すること。
- 4 支援の経過を評価すること。
- 5 利用者の生活課題を明確にすること。

問題 64 短期目標の設定に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 介護福祉職の視点で目標を設定する。
- 2 多様な解釈ができる言葉を用いて設定する。
- 3 実現可能な目標を段階的に設定する。
- 4 長期目標とは切り離して設定する。
- 5 最終的に実現したい生活像を設定する。

次の事例を読んで、問題 65、問題 66 について答えなさい。

〔事例〕

Mさん(78歳、女性、要介護2)は、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)に入居している。

楽しみは、お風呂に入って肩までつかることである。身体機能に問題はない。短期目標を、「見守りのもと、一人で入浴する(3か月)」と設定し、順調に経過していた。

1か月が過ぎた頃、朝の申し送りで、「Mさんが昨日浴室を出ようとしたときに足を滑らせたが、転倒はしなかった。念のため受診したが問題はなかった」と報告があった。その日の夕方、介護福祉職が入浴に誘うと、「行きたくない」と強い口調で断った。それから1週間入浴していないことを心配した介護福祉職が居室を訪ねて、安全に入浴できるように浴室を整えたことを伝えた。しかし、Mさんは、「怖いから」と小声で言った。

問題 65 Mさんの再アセスメントに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ
選びなさい。

- 1 順調に経過していたときの状況を分析する。
- 2 「怖いから」という思いを解釈する。
- 3 入浴を断られた介護福祉職の思いを理解する。
- 4 入浴時間の変更を検討する必要があると判断する。
- 5 入浴を面倒に思っていると判断する。

問題 66 再アセスメントによって見直した支援の方向性として、最も適切なものを
1つ選びなさい。

- 1 湯船につかる自信を取り戻す支援
- 2 浴室内の移動の不安を取り除く支援
- 3 浴室まで安全に移動できる支援
- 4 足浴で満足感を得ることができる支援
- 5 身体機能を改善する支援

次の事例を読んで、問題 67、問題 68 について答えなさい。

〔事例〕

Aさん(80歳、女性、要介護3)は、パーキンソン病(Parkinson disease)と診断されている。診断後も家業を手伝いながら、地域の活動に参加していた。

半年前からパーキンソン病(Parkinson disease)が悪化し、動作は不安定となったが、「家族に迷惑をかけたくない」と、できることは自分で取り組んでいた。また、主となる介護者である娘に服薬を管理してもらいながら、通所介護(デイサービス)を週3回利用し、なじみの友人と話すことを楽しみにしていた。

最近、通所介護(デイサービス)の職員から娘に、昼食時にむせることが多く食事を残していること、午後になると、「レクリエーションには参加したくない」と落ち着かない様子になることが報告された。

問題 67 介護福祉職がAさんについて、主観的に記録したものを1つ選びなさい。

- 1 パーキンソン病(Parkinson disease)と診断されている。
- 2 帰宅願望から、レクリエーションの参加を拒否した。
- 3 「家族に迷惑をかけたくない」と話し、できることは自分で行っていた。
- 4 週3回、通所介護(デイサービス)を利用している。
- 5 昼食時にむせることが多く、食事を残していることを娘に報告した。

問題 68 その後、娘が腰痛を発症し、Aさんは短期入所生活介護(ショートステイ)を利用することになった。

次の記述のうち、短期入所生活介護(ショートステイ)におけるAさんの生活課題として、最も優先すべきものを1つ選びなさい。

- 1 食事を安全に摂取できること。
- 2 服薬の管理ができること。
- 3 通所介護(デイサービス)の利用を再開できること。
- 4 なじみの友人ができること。
- 5 地域の活動に参加できること。